

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | |
|---------|-------------------|------------|
| 事業所番号 | 0770102275 | |
| 法人名 | MCP株式会社 | |
| 事業所名 | グループホームつどい八巻家 二丁目 | |
| 所在地 | 福島県福島市上鳥渡字向山 25-8 | |
| 自己評価作成日 | 平成27年8月5日 | 評価結果市町村受理日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.mcp-net.jp |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|-------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人福祉ネットワーク |
| 所在地 | 福島県いわき市錦町大島 2番地 |
| 訪問調査日 | 平成27年8月29日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の施設では、地域との交流や触れ合いを大切にしていきたいと考えています。毎年恒例の行事となった感謝祭も、そういった気持ちから生まれたものであります。その成果も少しずつではありますが見えてきているように感じます。地域の方との触れ合いや社会との交流は、高齢者にとっても大切なものであると思います。災害時にも最後に助けとなるのは、スプリンクラーや消防車ではなく近隣住民の方の力だと思われれます。その為にも、近隣の方との普段からのコミュニケーションによる信頼関係の構築が必要不可欠だと思えます。私達の施設では、月に一度は外食を計画しており、高齢者施設に入居したからといって、外界との接触を絶つのではなくむしろ積極的に出て行き活気に溢れる笑顔をひとつでも多く引き出していきたいと考えております。更には、個別のレクリエーションにも力を入れて行こうと、ご家族様と協力し、自宅外出や外での食事の時間を取るように環境を整えている所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域密着型サービスの意義を理解し、利用者の生活継続を考え、地域の方に事業所の行事に参加を呼びかけ交流を図っている。
利用者家族と日頃から話し合い、一人ひとりがその人らしく暮らせるように、思いや意向を汲み取りケアにつなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員からも見やすい位置に掲示し、理念を確認し業務に望んでおります。 | 地域で生活し、近隣の方との交流を継続することを目標に、事業所の行事に参加してもらっている。職員は目標を理解し、企画や運営に積極的に取り組んでいる。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として近所づきあいや地元の活動、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。 | 地域のボランティアの方々への協力によるレクのおかげで、ご入居者様の楽しめる姿が見られております。 | 開所10周年記念式典の料理や準備を、地域の方に手伝ってもらっている、ボランティアの方には唄や踊りを披露していただき、交流をしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 10周年記念式典を計画し地域住民の方々との交流の場を設けております。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている。 | 運営推進会議にて事故報告をおこない、ご家族様や民生委員さんよりアドバイスを頂いております。 | 家族の方から事業所に何かしてあげたいと、家族間のネットワークづくりの意見が出ている。事故については見守りや再確認が大事だとの話し合いが行われている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 該当事項なし | 研修会への参加呼びかけや、入居希望者の問い合わせがあるなど、行政との連携が取れている。疑問点や不明点については適切なアドバイスをもらっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | ご入居者様とのドライブや車イスによる散歩をおこない、外出ができる環境作りに努めております。 | 身体拘束はしないことを基本にし、職員に正しく理解できるようミーティング等で意識付けをしている。外に出たがる人には、職員と一緒に付き見守りし、拘束しないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 入浴時など身体の外傷チェックを行い、発見した場合他のスタッフへ報告し話し合いを持つ事で原因がすぐにわかるよう努めております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 他のフロアにて成年後見制度を活用している利用者様が折られるので、そこからの実践にて学んでいます。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 実態調査に行った際にも、不安なことやわかりにくい点が無かったかを確認している。十分に説明をしたのちに納得いただいた時点で契約に移るように心掛けている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 外食レクなどの機会にご家族様にも参加いただき意見をいただいている。 | 季節ごとの行事や面会に来たときに、意見や要望を聞くようにしている。かかりつけ医の受診の同行については要望があり、家族の方に対応してもらっている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や管理についての職員の声に耳を傾け、活かしていくことを心がけ、職員の働く意欲の向上や質の確保を図っている。 | スタッフにアンケートや自己評価を記入してもらい、それらを反映しております。 | 管理者と職員は日頃から、意見や要望を話し合える信頼関係ができている。利用者の食事量の低下について意見が出され、医療機関と連携をとり、適切な対応をしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 職員に欠員が出た時など、代わりに入れるスタッフをできるだけ早く探よう努め、常に三対一の割合で対応出来るよう配慮している。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 定期的な勉強会を開催し、スタッフが参加しております。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 実践者研修などを通し、同業者と交流する中で自分自身の考え方の幅を広げている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居したばかりのご入居者様には、施設のことを説明し、他の方とのコミュニケーションが取りやすいようスタッフが間に入っている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に聞き取り調査をおこない、家族の要望を吸い上げてケアプラン等に反映している。また、その後も面会に来た際に、新たに希望などがないかを確認している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 実態調査からニーズを導き出し、ケアプランを作成しそれに添ったケアを実践している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家事やレクリエーション等を一緒に行うことで、本人が活躍できる場を提供し、信頼関係を構築するようにしている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご家族様の面会時、または電話にて定期的にご入居者様の状態を報告し、また要望があるかをその際に必ず確認いたしております。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 利用者様の知人の方が面会に来た場合、話し合えるような環境作りや、連絡を取り合えるような状況のづくりに努めております。 | 以前住んでいたところや、思い出深い場所に行きたいという要望があり、個別に出かけるようにしている。勤めていた職場の同僚が面会に来ている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーション等を通して、全員に声かけし参加していただけるように促している。また、参加を悩まれる方には個別レクで対応しております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居される前に、次の行き先の提案や相談に乗っている。また、退居された場合にも相談に応じている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、関係者で本人の視点に立って意見を出し合い、話し合っていく取組を心がけている。 | 利用者様、スタッフで一对一で話し合う場面を持ち、その方の施設での生活に対する思いを理解するように努めている。 | 思いの把握が困難なひとは、寄り添ってテレビを見たり話しかけるなどして、思いや意向を汲み取るようにしている。家族の方から話を聞いたり、表情を見ながら思い受け止めている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご家族様の面会時に利用者様が、家で過ごしていた際の話伺い、理解を深めようとしております。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | ご入居者様の一日の様子をまとめて、スタッフ各自が理解できるようにしております。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 3か月ごとに本人や家族からの希望を聞き取りカンファレンスを行いプランを作成している。 | 状態が変化した場合は、医療機関と連携をとり、本人にあった見直しをし、介護計画を作成している。計画を変更したときは、家族に連絡している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 生活の様子を随時記録しケアに活かしている。また職員間での申し送りノートを作成し活用している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 利用者様・ご家族様語とに、外出レクや外食レクを計画し各スタッフが支援のため、同行しております。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 町内の夏祭や文化祭への出展を目指し、作品作りや地域との関わりを持ち続けることにより、生活を活性化するようにしている。また、図書館などへ行き、ご入居者様に読みたい本を選定していただいている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居以前からのかかりつけ医と協力医から選択いただいている。往診にて健康管理をして頂いている。 | かかりつけ医に家族が受診同行できないときは、職員が生活記録などを持参して適切な医療が受けられるよう支援している。協力医療機関を希望する方には、職員が同行し、受診結果は家族と共有している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 看護師への申し送りノートを作成し、受診等の結果や相談事項を記入している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 病院のソーシャルワーカーと情報交換しながら、状態の把握に努めている。また、スタッフが直接病院へ行き状態の把握をしている。退院後についても確認している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化した場合に備え、家族との話し合いを行い方針を検討している。 | 入居時に重度化や終末期について本人・家族と話し合い確認している。重度化した場合は、家族や医療機関と相談し、対応している。緊急時には、看護師や医療機関と連携し、安心してもらえるよう取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時対応マニュアルを作成し随時話し合いを行っている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的な避難訓練を行ない、避難ルートの確認や利用者ごとの避難方法をチェックしている。 | 消防署の協力を経て、消火器の使い方や夜間を想定した避難訓練を行っている。訓練後に避難経路や誘導の仕方についてアドバイスを受け、今後の訓練に活かそうとしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者様一人ひとりに適した声かけを行い尊厳を尊重しております。また、ミーティング等で接遇に関して話している。 | 介護労働安定センターや認知症実践者研修に参加し、ミーティングで基本的なケアについて話し合っている。職員の意識を高め、一人ひとりにあった対応ができるよう取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | スタッフと利用者様が、個別で話す機会を持ち本人の希望を引き出す時間を作っている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴や食事など本人主体で決めていただけるように支援している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 利用者様と買い物に行き洋服化粧品を選択できる機会を作っています。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている。 | 月に2回は利用者様に食べたい物の、アンケートをとり、手作りの料理または、お弁当にて提供しています。 | メニューのほかにも、希望があれば好みのもので食べていただくようにしている。食事の準備や後片付けを、できる方には手伝ってもらい、楽しい食事ができるようにしている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 朝昼夕とそれぞれに利用者様の食事摂取量を記録しどれだけ食べれているかを把握しております。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 食後利用者様に口腔ケアの声かけを行い、見守りや、支援を行なっている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | リハパン・パッドを使用している方にも、こまめなトイレの促しを行い、気分良く排泄できるようにしています。 | 食事の前や、排泄パターンを把握し、定期的 にトイレに誘導している。時計を見て、自分で トイレに行こうとする方には、何気なく寄り添 い個別に誘導して、自立に向けた支援をして いる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 便秘予防のため、水分摂取を促したり、トイレへ行った際に腹部マッサージや腹圧を掛けるなどの対応をしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴前に声掛けを行ない了承を得てから入っている。特に時間は決めていない。 | 一人ひとりの希望に合った時間に、入浴できる よう支援している。季節を感じられるようゆ ず湯や入浴剤を使い、楽しく入浴してもらえ るようにしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 臥床の訴え時には利用者様を居室へ誘導し、クッションの使用やギャッジアップを行い、安心して休める環境を作っております。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬担当が、他のスタッフに日付と時間帯を・利用者様の名前を確認し、どんな薬を服用しているのかを確認しております。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | おやつ作りが得意なご入居者様とは、キッチンにて一緒に作り、その方の経験を活かせるような取り組みをしております。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | それぞれの利用者さまの行きたい場所などを把握し、買い物や外食レクの際にご家族様に参加していただいている。 | 近くの公園に散歩に出かけ、近所の方と話しをするなど、楽しい時間を過ごしている。遠方へ出かける企画をしたときは、職員が充分に下見をし、安全・安心に外出できるようにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者様と買い物に行った際に好きなおやつなどを購入できるように支援しております。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 時間帯を踏まえた上で、出来るだけ電話の利用なども進めてプランに載せている方もいる。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室やフロアなど利用者様が過ごす場所に温湿度計などを設置し加湿器などを準備しております。 | 利用者と職員の手作りの作品が飾られ、季節が感じられる。一人ひとりが自分の居場所で好きなことをして過ごせるようにしている。感染症対策の勉強会に参加し、衛生面に気遣い、快適に過ごせるようにしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 一人でも、テレビを見たり新聞を読んだりできるスペースを設け、個人の生活のペースに合わせております。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切に本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 | 入居の段階で家族へと馴染みの物があれば、もってきていただくように説明している。居室に家族の写真や好きなものを配置することによって、自分らしさの感じられる空間を作って頂けるように促している。 | 天窓があり、明るく居心地よい居室になっている。職員と一緒に衣替えやお掃除をするなど、整理整頓に配慮している。家族の協力を得て、加湿器を備えてもらい健康に過ごせるようにしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを取り付けてあり、安全に歩行できるようにしてある。洗面台やキッチンの高さも高齢者専用になっている。また、トイレも車イスが入れる広いスペースになっている。 | | |